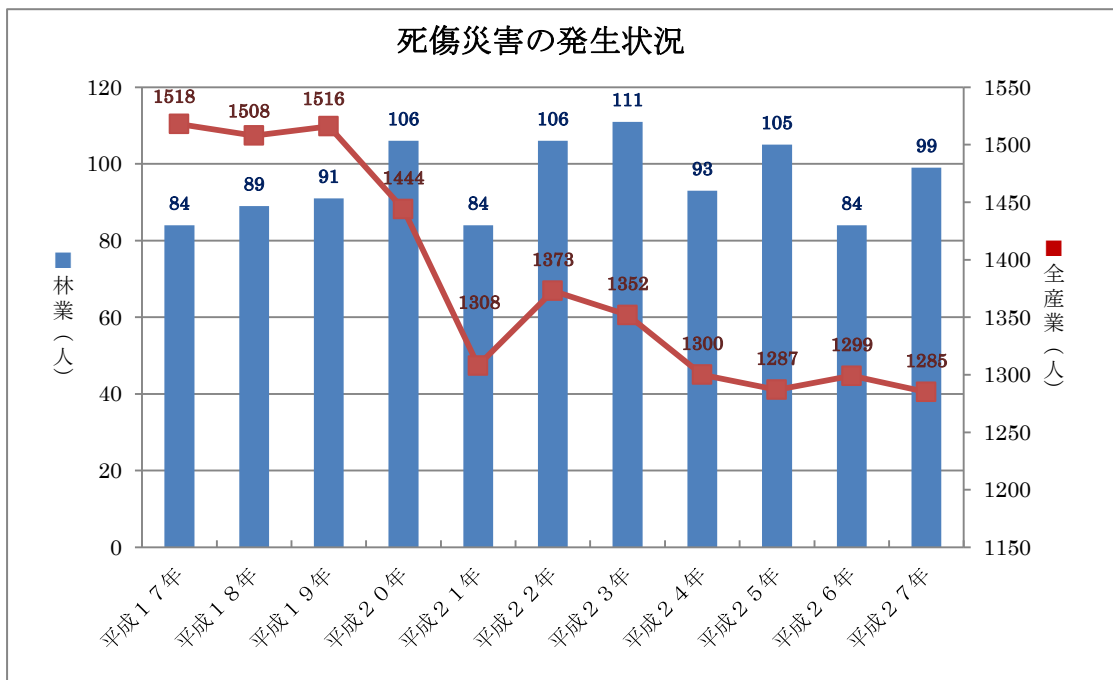


● 林業における死傷災害の発生状況

宮崎県内の平成27年の死傷者数は1,285人(前年より14名減)となっている。

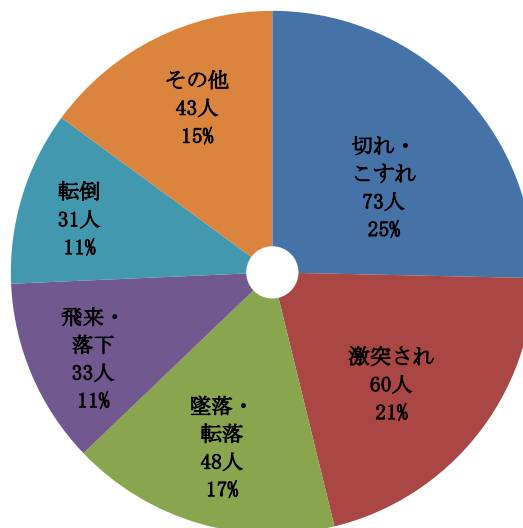
林業においては、死傷者数は99人で、前年より15名増加し、減少傾向はみられない。



宮崎県内の林業における平成25年から平成27年の休業4日以上死傷者数は、288人となっている。

林業の休業4日以上死傷災害事故の型別 (H25~H27)  
合計288人

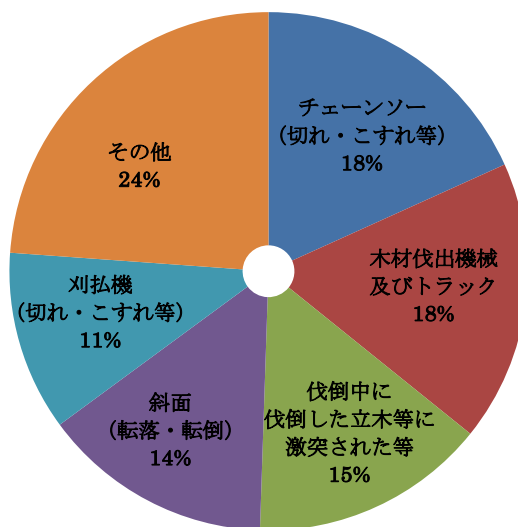
平成25年から平成27年の林業の死傷災害(休業4日以上)を事故の型別で見ると、「切れ・こすれ」が25%、「激突され」が21%、「墜落・転落」が17%、「飛来・落下」が14%、「転倒」が11%となっている。



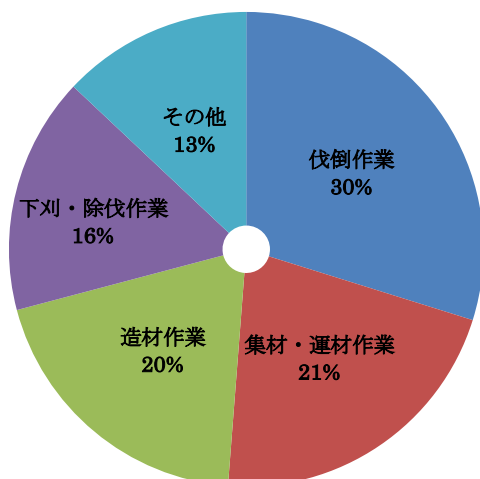
平成24年から平成26年の災害は、チェーンソーによる「切れ・こすれ」等が18%、木材伐出機械及びトラックに係る災害が18%、作業者が伐倒中に伐倒した立木等に激突等された災害が15%、斜面での「転落・転倒」が14%、刈払機による「切れ・こすれ」等が11%となっている。

チェーンソーと刈払機による「切れ・こすれ」等が3割を占めている。

林業の休業4日以上死傷災害  
平成24年～平成26年(282人)



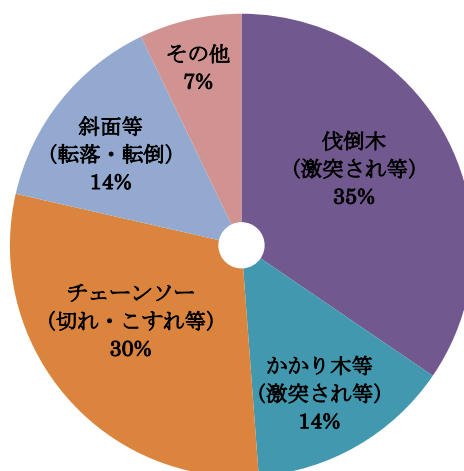
林業の休業4日以上死傷災害  
作業別 (平成24年～26年)



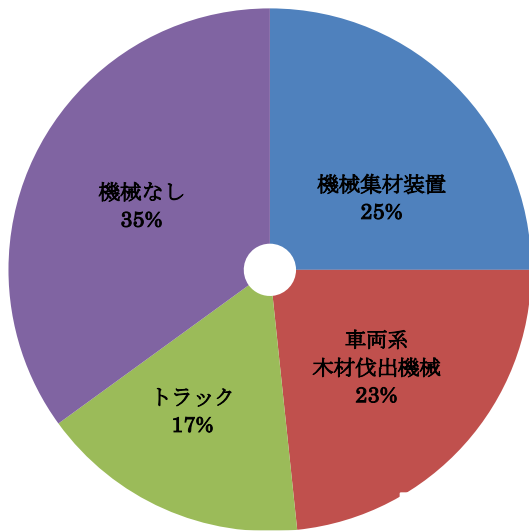
作業別で見ると、伐倒作業時が、最も多く30%、集材・運材作業が21%、造材作業が20%、下刈・除伐作業が16%となっている。

伐倒作業時の災害をみると、作業者が伐倒木やかかり木等に激突された等の災害が49%を占め、チェーンソーによる「切れ・こすれ」等が30%となっている。

林業の休業4日以上死傷災害  
伐倒作業 (平成24年～26年)



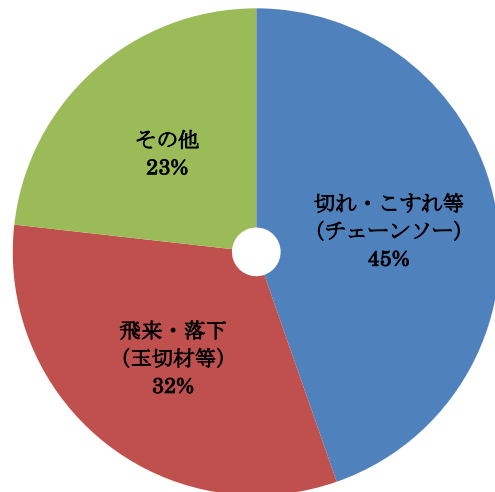
林業の休業4日以上  
の死傷災害  
集材・運材作業（平成24年～26年）



集材・運材作業について、機械別にみると、機械集材装置に係る災害が25%、車両系木材伐出機械に係る災害が23%、トラックに係る災害が17%である。

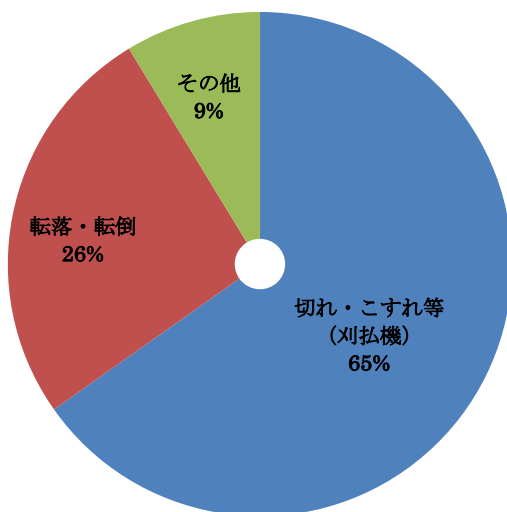
なお、機械集材装置及び車両系木材伐出機械については、つり荷や掴んだ荷に激突された災害、トラックに係る災害については、荷台からの転落災害が多く発生している。

林業の休業4日以上  
の死傷災害  
造材作業（平成24年～26年）



造材作業については、チェーンソーによる切創等が45%、玉切材等の飛来・落下が32%となっている。

林業の休業4日以上  
の死傷災害  
下刈・除伐作業（平成24年～26年）



下刈・除伐作業については、刈払機による「切れ・こすれ」等が65%、「転落・転倒」が26%となっている。